

氏 名	T S E D E N D O R J O N O N		
学 位 の 種 類	博士（医学）		
学 位 記 番 号	甲第507号		
学位授与年月日	平成31年2月12日		
審 査 委 員	主査 教授	中村 守彦	
	副査 教授	原田 守	
	副査 教授	松本 健一	

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

食物アレルギーの原因検索には、抗原特異的 IgE 検査が広く臨床使用されている。抗原特異的 IgE 検査には多くの場合、食物の粗抽出抗原が使用されているため、検査項目によっては偽陰性や偽陽性の割合が高く十分な精度を示さない。一方、精製アレルゲンを使用した抗原特異的 IgE 検査は、食物アレルギーの診断において、感度および特異度が向上することが知られている。本邦では、学童期以降の食物アレルギーの原因が甲殻類である場合が多いにもかかわらず、保険適用されているエビ特異的 IgE 検査の診断精度は必ずしも高くないことが問題となっている。

そこで申請者は、甲殻類の主要アレルゲンとして報告されているトロポミオシンを利用してエビアレルギーの診断精度を検討した。病歴および皮膚プリックテストでエビアレルギーと診断された患者 27 名（内訳は口腔アレルギー症状を示す 11 名、蕁麻疹を示す 13 名、その他の症状を示す 3 名）とエビ抗原特異的 IgE 検査が陽性であるが、エビアレルギー症状を示さないアトピー性皮膚炎患者 5 名を対象として、抗原特異的 IgE 検査（エビ、カニ、トロポミオシン）と、エビ粗抽出抗原および精製トロポミオシンによる IgE ウェスタンブロット法を用いて特異的 IgE を検出し、それぞれの検査法の感度と特異度を検討した。その結果、トロポミオシン特異的 IgE 検査は、エビおよびカニ特異的 IgE 検査に比べて感度は低い（37% vs 74%、76%）、特異度が高いこと（80% vs 0%、0%）を示した。さらに、IgE ウェスタンブロット法の結果はトロポミオシン特異的 IgE 検査の結果とよく一致し、精製トロポミオシンを用いた IgE ウェスタンブロット法の特異度は 100%となることを明らかにした。加えて、エビおよびトロポミオシン特異的 IgE 検査は、エビアレルギー患者の中でも口腔アレルギー症状を示す患者の検出感度が高いこと、エビ、カニなどの甲殻類間の交差反応はトロポミオシンに対する感作が一つの要因であることを認めた。

本研究は、本邦におけるエビアレルギーの診断において、トロポミオシン特異的 IgE 検査は、感度は低いが特異度が極めて高いことから、陽性の場合には診断精度が高いことを明らかにした。この結果は、トロポミオシン特異的 IgE 検査が保険適用に向けた有用性を支持しており、食物アレルギーの原因検索の進歩に有益な情報を提供した。

以上より、本研究の成果は臨床的意義が大きく、学位授与に値すると判断した。